北海道は元気です

女将が来道呼び掛け

北海道女将の会がEXPOに駆けつけた

北海道女将の会（須賀紀子会長＝登別温泉郷滝乃家女将、26会員）は9月21日、東京都内で開かれたツーリズムEXPOジャパン2018の北海道ブースなどで「北海道は元気です」と来道を呼び掛けた。

北海道胆振東部地震で観光に深刻な影響が出ているが、9月18日にはるみ知事が、同庁のホームページで「現在は、旅行される方の移動や滞在に支障がない程度まで回復していますので、安心して旅をお楽しみいただけます」とのメッセージを発信した。これを受け、風評被害を払拭するため「生の声を届けたい」と、9人の女将が急きょ会場に駆けつけた。

女将会のメンバーは同日、首相官邸で安倍晋三首相を表敬し、現状を伝えた。安倍首相は「本日、北海道旅行への割引を行うことを指示した」と応じた。政府は北海道全域を対象に宿泊割引制度「ふっこう割」の導入を決め、実施方法などの制度設計を早急に詰める。

食と酒の背景を紹介

日本海美食旅がテーマ

新潟県・庄内プレDC10-12月

新潟県と山形県庄内地域で10－12月の3カ月間、「新潟県・庄内エリアプレデスティネーションキャンペーン（プレDC）」を実施する。テーマは、「日本海美食旅（ガストロノミー）」。〝食と酒〟の魅力を中心に、背景にある歴史や風土、文化をストーリーとして紹介し、食のおいしさの理由を伝える。

「新潟県・庄内エリアプレDC」推進協議会は9月20日、東京都内で説明会を実施した。村上・新発田エリアの「鮭文化」や湯沢・魚沼エリアの「雪国A級グルメ」など各エリアの食の魅力を解説したほか、弥彦・三条エリアの「彌彦神社パワースポット巡りツアー」を紹介。会場には各エリアのさまざまな食材を使った料理も用意した。

調理を担当したアル・ケッチァーノのオーナーシェフ奥由政行氏は「新潟、庄内エリアでは、現代の品種や、温海かぶなどの在来品種を味わえるほか、新品種の開発も行われている。3世代の食材の魅力と、海と山の食材の取り合わせを味わってほしい」と語った。

ぐるなびと共催する「日本海ガストロノミーレストランウィーク」の概要も発表した。「日本海に内在する本来の日本文化と食文化の体験」をテーマに8エリア30店舗が、10月1日－11月11日まで特別メニューやサービスを提供する。

長谷部渋谷区長（中央）と

渋谷と新宿が訪日向け夜観光

日本有数の繁華街、渋谷と新宿が夜観光でタッグ―。東京都の両区は2019年1－2月、訪日外国人観光客向け消費喚起事業として、「TOKYO Night Time Passport」を実施する。両区の加盟店で利用できる5千円のバウチャーチケットを発行し、安心安

女性5人がキャラバン

多摩地区の旅行会社に

むさしの会

むさしの手配センター（小原寛信社長、東京都立川市）はこのほど、同社協力会「むさしの会」（会長＝高橋美江・益子舘里山リゾート女将）の事業として、第4回女性キャラバンを実施した。「女性の力で観光業界を盛り上げよう！」と、5人の旅館・ホテルや観光施設の女性経営者、女将、予約担当者らが参加。小原社長とともに、東京多摩地域の旅行会社を10数社訪問した。

高橋会長は「キャラバンに参加した5人はそれぞれ会社は違うが、旅行者を受け入れる同じ仕事。女性同士の意見交換や、悩みの共有もでき、とても素晴らしい機会だった」と話し、「ぜひ今後も続けていきたい」と意欲をみせた。

女性の力で観光盛り上げる

今回参加した5人は次の各氏。

高橋美江（益子舘里山リゾートホテル女将）▽植田京子（ジャンボひものセンター代表）▽背木由記子（よろこびの宿しん喜若女将）▽小泉綾（西伊豆クリスタルビューホテル予約担当）▽注連比呂己（四五六葉館予約担当）

新潟、庄内地域の食材の魅力を語る奥田シェフ

優良企業表彰受ける

組合員発展への寄与評価

(協)長旅協

協同組合長野県旅行業協会（三澤弘理事長、132会員）は9月12日、全国中小企業団体中央会の「優良組合」に選ばれた。旅行商品の入手の容易化をはかるとともに、仕入れコストの削減などの組合事業に積極的に取り組み、組合員企業の経営の安定・発展に寄与したことが評価された。

三澤理事長は「優良組合として表彰されたのは、組合設立時から運営に携わってきた理事、役員の皆様の献身と、全組合員のたゆまぬ努力のたまもの」と謝意を述べた。「この受賞をさらなる発展への節目と捉え、組合員のための組織であることを肝に銘じながら、事業拡大に取り組む」とした。

表彰式は、同日に京都府京都市内で行われた、「第70回中小企業団体全国大会」のなかで実施。優良組合39組合、組合功労者73人、中央会優秀専従者21人が表彰された。

三澤理事長

森の中の1軒宿　ぬるい温泉と田舎家風佇まいが人気

福島県福島市

ぬる湯温泉旅館二階堂

登録有形文化財

浪漫の宿めぐり

旅のルポライター　土井 正和　90

手前2階家から帳場、中座敷、古屋の各棟。100年余りの年月と雪に耐えた

樹林におおわれた幅員3㍍ほどの県道126号を登ること約20分、道のどん詰まりに旅館はあった。周辺に他の建物はまったくない。吾妻山の中腹、標高約900㍍の場所だ。「秘湯」にふさわしい佇まいである。

温泉の歴史は詳細不明だが、元禄年間（1688－1703年）以前にさかのぼる。現在の持ち主である二階堂家が引き継いだのは1803（享和3）年で、初代伝四郎の時だった。客はもっぱら農閑期の湯治客で、シーズンは晩秋から田植え前までの春。仙台方面の漁師も海が荒れる冬期にやってきた。どの客も半月以上の滞在が当たり前だった。

観光客が訪れるようになったのは、1970年代に女性誌で紹介されてからだ。いっときは館内があふれるほどの客が訪れたという。「秘湯」ならではの魅力が人気を呼んだのだろう。現在では数日泊の湯治客3割、その他が登山客や観光客などで落ち着いている。

湯治人気が高いのは、温泉の効能が人気だったからだ。とくに眼病に良いとされた。酸性・含鉄（Ⅱ）－アルミニウム－硫酸塩温泉。旧泉質名では含緑礬・酸性明礬温泉である。

温泉のもう二つの魅力が湯の温度。ほぼ自然湧出だが、湧出時の湯温は31・5度。加熱せずに入浴し、1－2時間も入る人が少なくない。体にかかる負担が軽く、血管や交感神経への影響もよいという。旅館のパンフレットに書かれた日本ぬる湯温泉番付では、堂々と東の横綱にランクされている。

細長く延びる建物は、手前から平屋建ての厨房、大正時代中期に平屋から2階に増した帳場棟、明治時代の中期に建てられた中座敷棟、初期建築の古屋棟が続く。帳場棟の前面に玄関があり、玄関脇から渡り廊下で1993（平成5）年建築の浴室棟へ行ける。帳場、中座敷、古屋の3棟が登録有形文化財だ。

帳場棟と中座敷棟はトタン屋根、古屋棟は急勾配の茅葺屋根である。トタンや急勾配は雪対策。冬は1－2㍍の積雪となり、旅館も11月上旬から4月下旬まで休業となる。

使用中の客室は20室余り。古屋棟2階の部屋からは茅葺屋根の端が見えて田舎家気分が味わえる。中座敷棟南側の部屋は各室に床の間を設け、四方に杉板の長押を回して落ち着きある造り。廊下に面した障子は面取りした格子の桟が入り、廊下のガラス戸は表面がゆがんだ古ガラスのままだ。

帳場棟2階の客室は2間続きで、間仕切りの欄間に変木を使い、床の間の落し掛けはカンナで削り込んで洒落ている。板床で細めの床柱が数寄屋風の造り。庭に面した広縁から多くのシャクナゲが見え、5－6月の花期は美しいそうだ。

雪深い代わりに夏の気温は27－28度。ぬるめの温泉で長湯して、古い造りの部屋でくつろぐ。贅沢な避暑ができるだろう。

同じ行動を

観光コンサルタント　西川丈次（にしかわじょうじ）の　もてなし上手

～ホスピタリティによる創客～ ㊾

お客様に寄り添う言葉でおもてなし

仕事で、2軒のホテルに初めて宿泊をしました。2軒ともチェックインの日は天候が悪く激しい雨でした。1軒目では、業務を終えて激しい横殴りの雨のなか、ホテルに向かいました。到着するとズボンはびしょ濡れでした。

フロントでチェックインしようとすると、「お部屋の準備はできていますが、ご予約のプランが、19時半以降のチェックインですので、それまでお待ちいただけますか」と言われました。時間は19時前なので、少し待ちましたが、寒気もするので、もう一度「部屋に入って休みたい」と申し出ると、「ではアーリーチェックインですね」と言われ、追加料金を支払ってチェックインできました。

2軒目のホテルでは、予定より早く業務が終わり、正午過ぎのチェックインでは、早すぎるとは思いませんでしたが、雨も降っていたので、ホテルに向かいました。すると、「今日ご利用いただく予定のお部屋は、掃除がすでに終わって準備はできすぎるとは思いませんでした。別用

8年間の旅行会社での勤務後、船井総合研究所に入社。リーダー・チーフ観光コンサルタントとして活躍。ブログ、メルマガは好評で多くの観光コンサルタント業で養われた専門性と異業種の仕、観光業界の新しい在り方とネットワークづくりを通ビジネスコンサルタンツを起業。同社、代表取締役社長。